

万華鏡

万華鏡は発明者がいます。スコットランドの物理学者、光学の大家プリュースターです。発明したのは1816年で、灯台の光を遠くに届けるために鏡を組み合わせて発明したようです。英語では万華鏡はKALEIDOSCOPEですが、ギリシア語の美しい、形、見る、から彼が作った造語です。

この万華鏡は、あつという間に当時鎖国していた日本に伝わり、浜松歌国という人が書いた未刊行の摂陽奇観に発明からわずか3年後の1819(文政2)年のところに、万華鏡が大ブームで大阪では模造品が大量に出回っているという記事があるそうです。

展示場2階の万華鏡は、2つの万華鏡が1つの筒に収められています。日本では、万華鏡は3枚の細長い長方形の鏡を正三角形に組み、無限に続くような映像を楽しむことが多いのですが、ここでは3枚の台形の鏡を組んでいます。ミラーボールに映し出されたかのような映像を見ることができます。先ずぼまりの鏡なのでテーブルドミラーシステムの万華鏡と呼ばれます。

西洋では、2枚の細長い長方形の鏡の間に幅の狭い黒色の板を入れ、細長い2等辺三角形に組んだものが主流です。教会のバラ窓のような映像が楽しめます。展示している万華鏡の下側のものは、この黒い板を鏡に変えたものです。ちょっと不思議な映像が楽しめます。このように同じものを見ても、鏡の組み合わせ方で全く違って見えてしまうところが万華鏡の面白さです。

今は下火ですが、万華鏡の母、故コージー・ベーカーさんの活躍で、1980年代に万華鏡はアメリカで大ブームになり、日本でも1990年代にブームが起こりました。きっと再ブームが今後も起こるでしょう。万華鏡は自作するのが面白く、僕も何本か作り、展示している万華鏡も設計しました。

大倉 宏(科学館学芸員)



展示場2階鏡のコーナーに置かれた「万華鏡」とコージー・ベーカー編著の「万華鏡」



このyoutubeチャンネルから動画映像が見れます。